

蛇

龍

成人指定

刃

丹

恒

Houkai Starrail Unofficial Fanbook

Buckingham



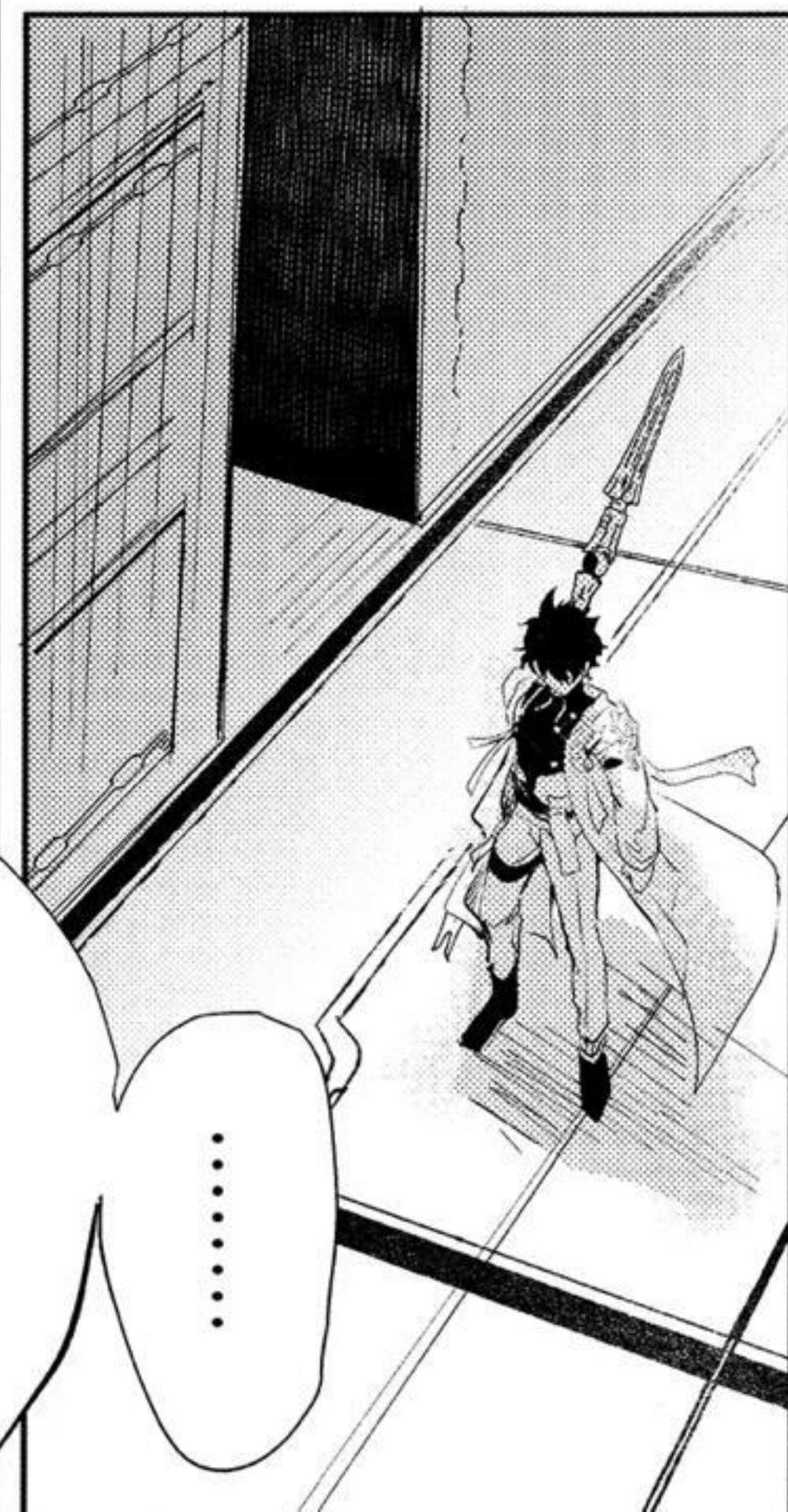
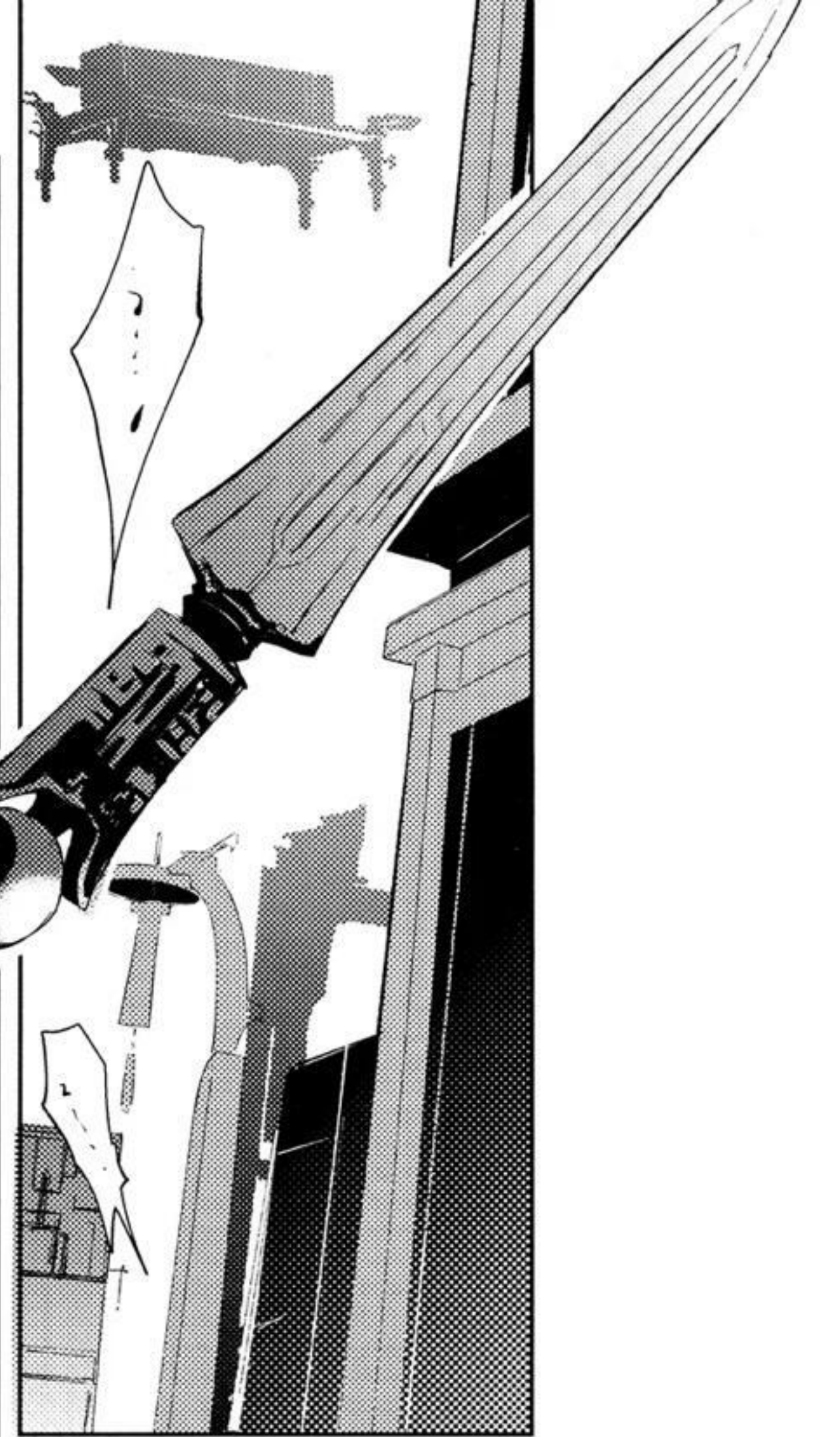


忘れはしない
...貴様の血温

逃げるがいい



俺がこの手で
引きずり出してやろう



何やら騒がしいな

.....











「正確に心臓を貫いた筈」
そう考えているんだろう？



まるで亡霊でも
見たかの様な顔だな…

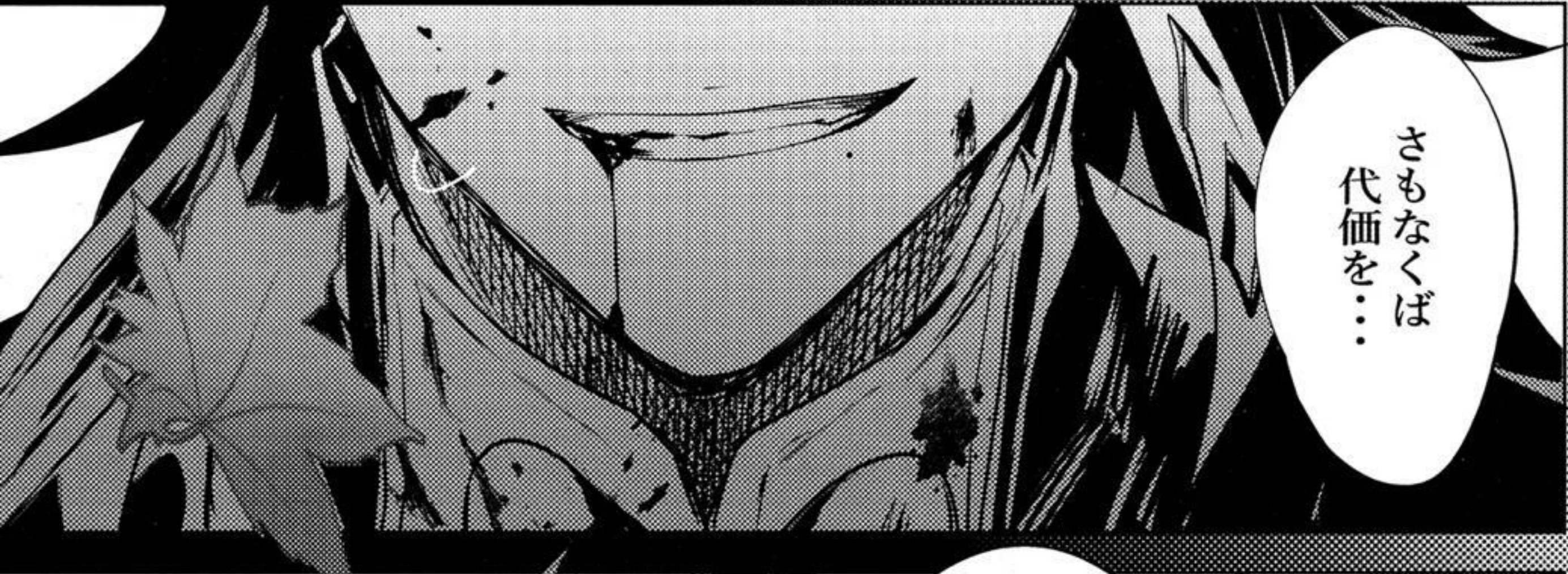


そう、

貴様になら
出来た筈だ



もう一度、俺の息の根を
止めて見せろ



さもなくば
代価を…



次は貴様が俺の刃に
貫かれる番だ…



気が変わった





貴様は
覚えているか…

俺達の
犯した罪を

古海の脱鱗…

…



貴様の本性を

俺が思い出させてやる

己の姿

…



逃げるのは

...!!?

逃げないのか?

どうした?

得意だろ?







何故、拒めない…

このような事、
許すべきではない筈

良い目だ…



期待しているのか？

今からこの俺に
犯される事を…

……！



ここまで、挿はいるぞ

腹の奥...

抗ってみせろ

ほら、



……俺の槍

撃雲がお前を貫いた時……

涙が頬を伝い、

かつて無い
無常を感じた……

知りたいんだ……

その理由を
わけ

貴様……

正気で言っているのか？

キッ

……



なら話は早いな

やも...



ふっ...

どっちだ...
まるで生娘の様な反応だな
今の姿になってから初めてという
訳でもないだろう？



ま・待っ...
ま・待っ...
ま・待っ...

は……

……

なあ……応星

……初めてに
決まっている……っ

私を、どうしたい？





あれだけ抱いて
やったんだ……



トキ。



直ぐに慣れる

ドン

アッ



あ……っ

ちゅっ

ズ

……入って、
くる

ズ



……ッ



ああ...ああッ...!!

力を、抜け

無理だ...ッ

.....ッむり

.....は...ッ





飲月…

全て俺の物にしたい…！

お前が欲しい

違うだろ…応星…

私…の名を
呼んでくれ



お前を愛している

丹楓
...

!?

はっ
...

ア



!

っ...あ、あ

ひあああ...ッ、あ

っ
.....

何で...こんな...っ

嫌...だ♡♡

130





は...ッ

どうした？
突然感度が上がったな

肉が絡みついて
くるぞ？

どうだ？
ここが好きだろう？



抜くな...あ

あ、あ...ッ

ふ...ん



声が、
止まらない

あ

体が...

勝手に
反応して...

あっ



そうか

あ…ッ!



!?

は…

え?

いった
…のか?

ほお、

抜くなと言うから
挿れてやれば
…この始末か



あ…ッ

あ…ッ

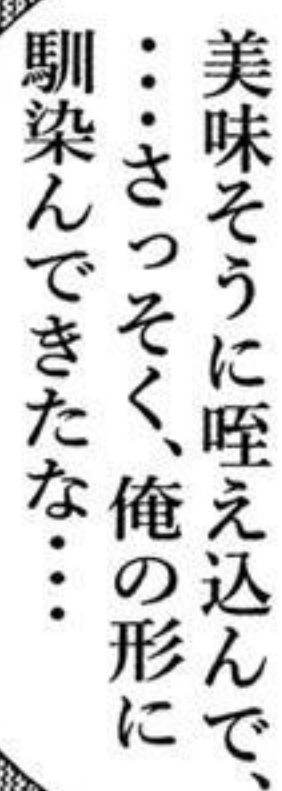
ヤ

ル

あ…ッ

あ…ッ

あ…ッ







!?

...

3

3

ふ...あ.....ん

ん、ん、あ

あ...あ...あ





じ…んッ、

や…あ

も…っ

む…

は

う？

あ
う

じ…ん



やめ…ツッ

刃っ…

奥が熱い

もっと、
埋めて欲しい

や…
もういった
…からッ…あ

アっ…!



うあ…ああ

……んあ

まだ始めた
ばかりではないか

ツ…あああ



ふッ

くッ



貴様…何をほざいている？



お前……
殺す気か……!!

これ以上は……
もう……っ

まだ足りない……もつとだ
最奥で吐き出して

うあ

もう一度……ッ
貴様を
俺のものにしてやる

丹楓……!

ふあ、ああああ……

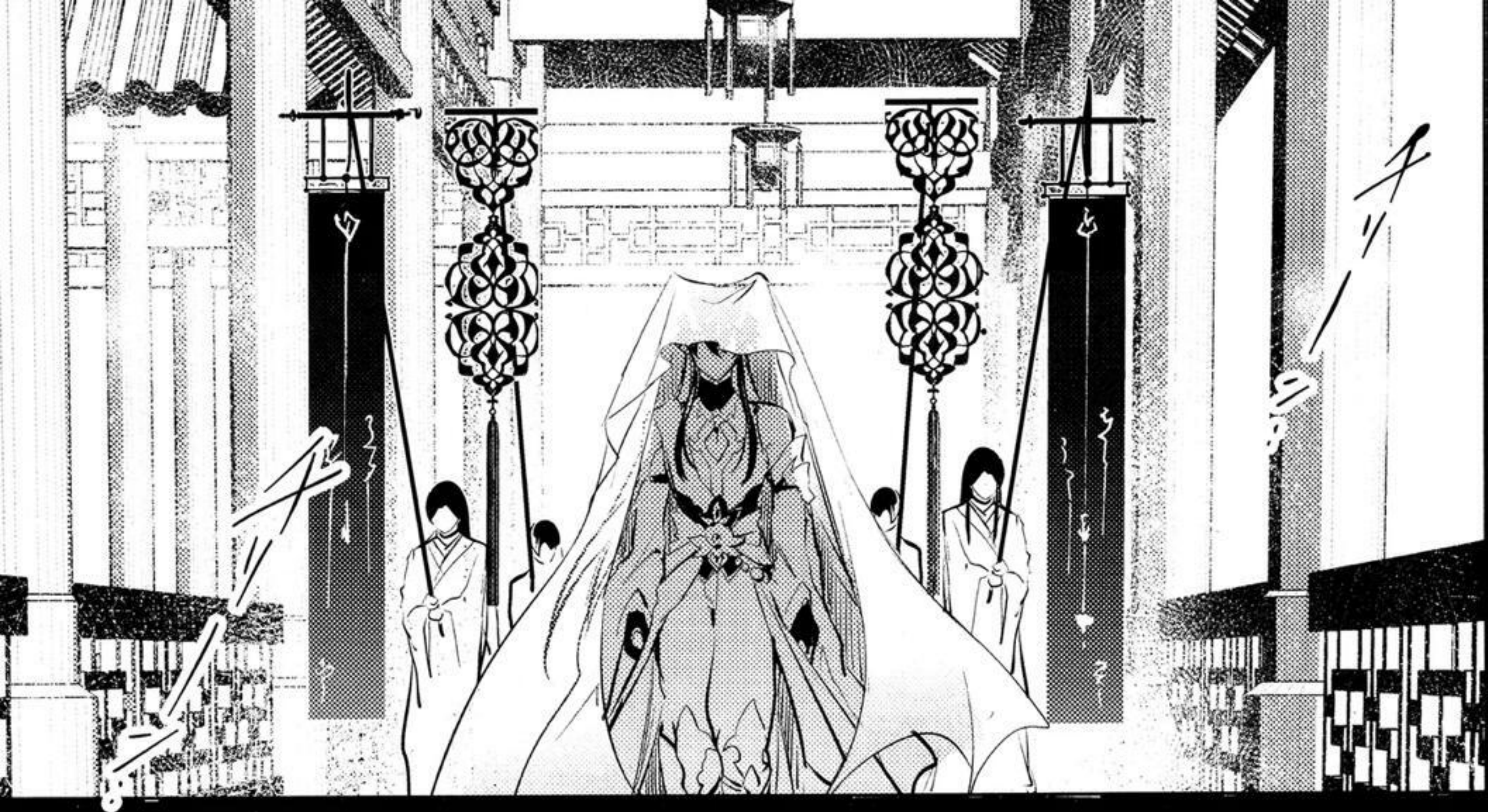




そうだ……
俺が君に遺したもの

それは死ねない体と
無窮の孤独……

そうなる筈ではなかった……
そうしたかったのではない





何故…
奴がここに？



私は処刑を受け入れ、
彼は代価を支払った…



それでいいだろう…



どうか私を
恨んでくれ

彼は私の罪に
付き合わされただけ



すまなかった



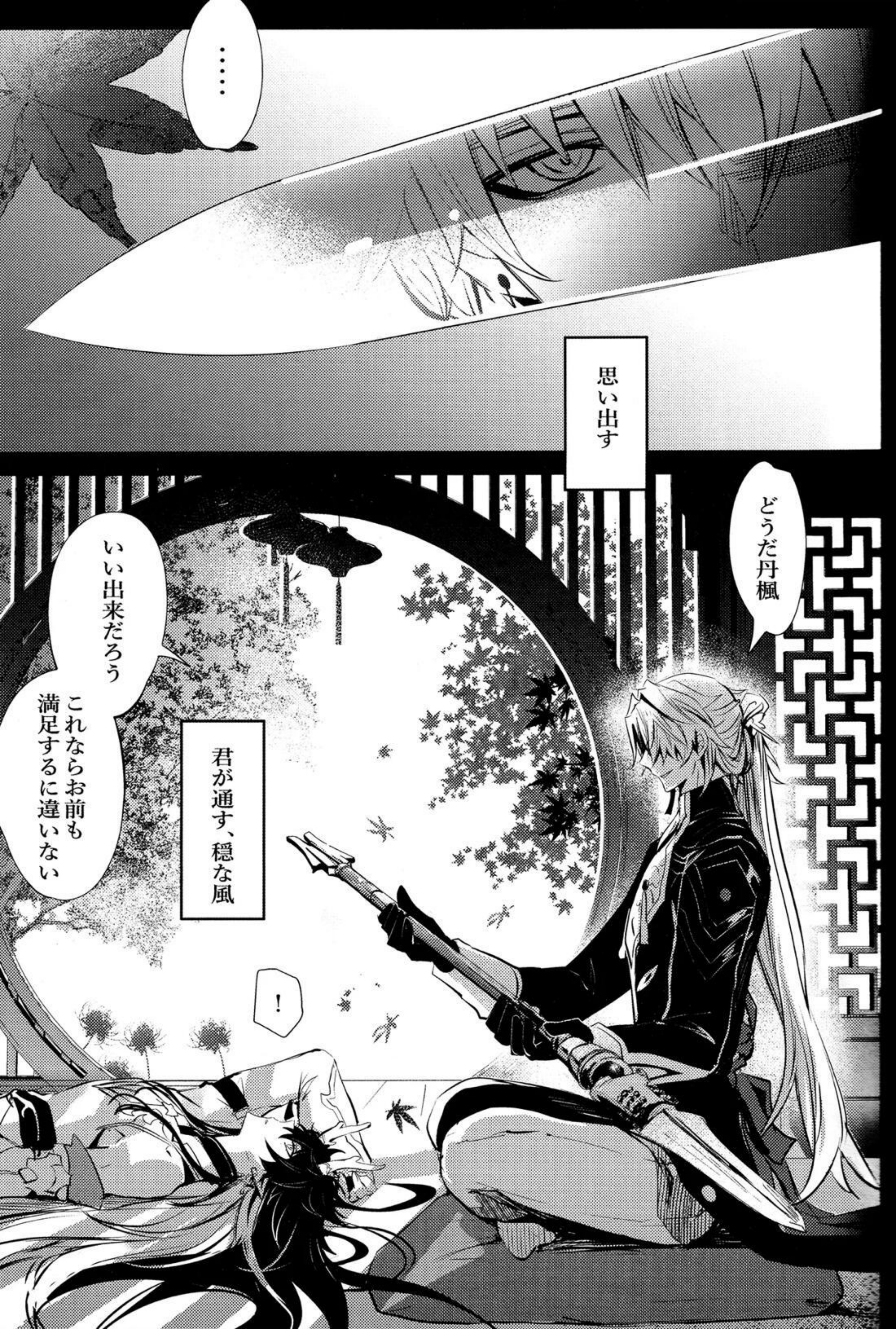


共に苦しみ歩んで
やれぬ事を
許して欲しい

いつかまた、
会おう……

来世……どうか
その手で
私を裁いてくれ

友よ……



...

思い出す

どうだ丹楓

いい出来だろう

君が通す、穏な風

これならお前も満足するに違いない

!

流石だ…

名はなんと云う？

いつの世も暗雲を
薙ぎ払い滅つする
力となるよう

“撃雲”と…

！



応星…

私は君といるだけで
満足だよ



俺の遺して逝く作品は
この先もお前達と共にある…



……

それは嬉しいな
しかし、俺は短命種だ
老いさらばえいずれ死ぬ

だが、この「撃雲」が
俺の代わりに
お前を守るだろう



愛しているよ

…私もだ

もう、
あの頃には戻れない

……応星

龍尊殿…

君を壊したのは
俺だ……



はア

ん...ん...

ツ...

んぐ...

ッあ

!!



冷たい目をした
この男の腕は

とても熱く、

酷く懐かしかった

記憶が戻ったのか

丹楓……

いや、飲月

……

……

そうではない

朦朧とした意識の中で
幻覚のようなものを見たが

……只の夢かも
しれない

それと……
一つ言っておく



俺は丹恒だ

飲月：丹楓として
お前に抱かれた
訳ではない



だからどうした



俺も「応星」などと言う
名はとうの昔に捨てた……

……



……さっ

やはりこの程度では
本性を現さなかったか



そうだな

次は俺の剣に
聞いてみるとするか……





なあ…、

飲月

『kouryu-蛇龍』

2023/8/20 /NO,11

サークル:バッキンガム

森モリィ

Twitter@oomoriyakisobaa

pixivID:66040263

印刷所様:STAR BOOKS

※この本は個人による妄想の産物です。公式様とは一切関係ありません。

感想頂けるとめちゃくちゃ嬉しいです!▶



Reproduction is prohibited.Unauthorized reproduction prohibited.
Note:Please be sure that this book is for individual
use and must not be delivered to official related persons.
禁止私自轉載、加工。

※こちらの内容はバージョン1.1~1.2~の間、1.3未プレイ時に制作した内容になります。